

# リシリコンブ色調不良の実態把握と原因の解明を目指して

稚内水産試験場 資源増殖部

## 研究の目的

近年、宗谷管内において乾燥した後のリシリコンブに白っぽい斑紋が発生する事例が見られ、漁業者の間でまだらコンブと称されている。まだらコンブは色調不良として通常のコンブより安く取り引きされることから、その防止対策が課題となっている。

このため、本調査は、まだらコンブの発生場所の状況および性状等の実態を把握し、その原因解明を目的として実施した。

## 研究方法

潜水による環境調査およびサンプリングを2001年7月9日に稚内市富士見、8月21日に稚内市珊内で行った。このうち、稚内市珊内のサンプルおよびデータを用いて、生育環境・乾燥方法・乾燥歩留まり・成分・組織などの解析を行うとともに、成分分析には利尻町新湊の養殖コンブのサンプルも併せて用いた。

## 研究の成果

- ① 採取または生育時のコンブの葉長、葉幅、肥大度、子嚢班など外見上からまだらコンブを見分けることは困難であるが、コンブ現存量、コンブ着生密度ともに低く、質の高いコンブが期待される漁場に多いことから、生育段階で何らかの違いが生じていることが示唆された（表1・図1）。
- ② C/N（窒素・炭素）比、マンニット、エキス態窒素量ともにまだら部分（白色部）が高いことから、まだら部分には光合成同化産物が他の部分よりも多いと考えられた（図2・表2）。これら特徴は、質の高いコンブが示す特徴であった。
- ③ 通常部分（黒色部）に比べまだら部分（白色部）は、光を通しにくく、内部まで白いなど、両者の性質に違いがみられた（図3・4・5）。これらのことから、まだらによる色の違いは、付着物などによる表面的な違いではなく、内部の状態に違いがあることが明らかになった。

## 成果の活用面

今回の調査でまだらコンブの品質が良いことが判明した。このことはコンブ問屋の業界紙に記事として掲載され、流通関係者などに一定の理解が得られたようである。また、本調査の結果をもとに各漁協で勉強会を行い、それをもとに漁協独自の流通関係者への働きかけもされ始めている。このような取り組みにより、今後のまだらコンブの安価な取引の防止が期待される。

表1 採取時点の形態の比較

	平均葉長(cm)	平均葉幅(cm)	平均葉重量(g)	平均肥大度	子囊班割合%
まだらコンブ(n=44)	154.5	17.2	342.4	0.128	67.4
まだらの無いコンブ(n=77)	139.2	17.4	324.0	0.130	82.9

(n: 個体数)

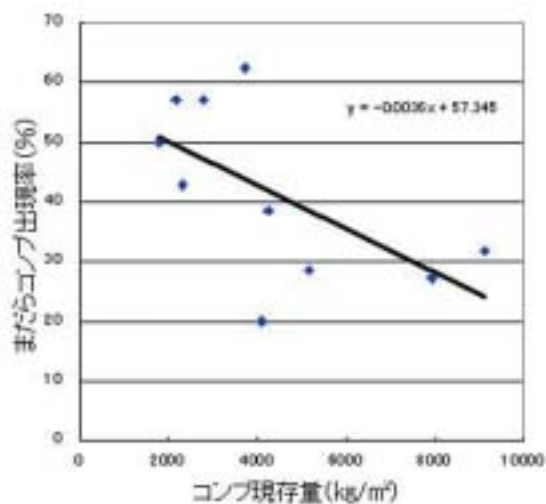


図1 コンブ現存量とまだらコンブ出現率

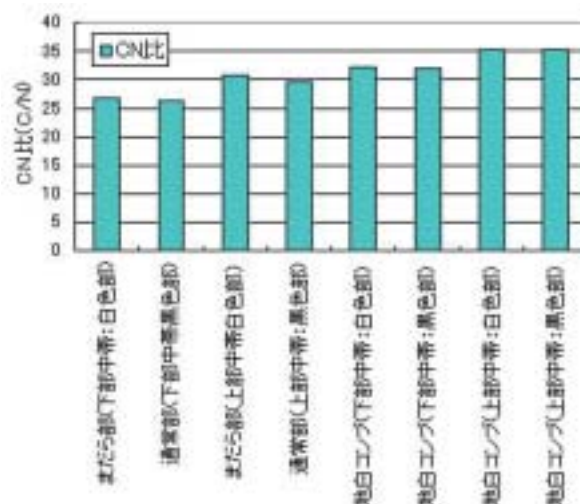


図2 まだらコンブのCN比

表2 マンニット、エキス態窒素量の比較

			水分	灰分	粗タンパク質	マンニット	エキス態窒素
利尻産養殖コンブ	まだらコンブ	まだら部	4.8	17.5	6.9	26.9	282.3
		通常部	5.5	18.1	6.7	23.3	136.5
	対照	5.8	20.8	6.2	19.7	154.4	
稚内産天然産コンブ	まだらコンブ	まだら部	5.1	18.2	5.1	30.5	166.9
		通常部	5.3	18.5	7.3	26.5	100.1
	対照	4.5	17.7	6.5	26.5	184.0	

(mg/100g)



図3 まだらコンブ表面



図4 透過光による観察



図5 まだらコンブ断面